

令和3年3月31日
株式会社シーエス・ワンテン
バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和3年3月31日（水）
- ・開催方法 新型コロナウイルスの影響により書面での開催
- ・参加者 審議委員総数 7名
 - 委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）
 - 委員 関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）
野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
松居 秀之（株式会社ピクス 常務取締役）
松尾 健司（株式会社J-WAVE 編成局 エグゼクティブプロデューサー）
山本 伸夫（株式会社日経BP 日経エンタテインメント！編集 編集長）

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）

福田 泉（代表取締役社長）
谷 俊之（編成局長）

（番組供給事業者：バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社）

井股 進（代表取締役社長）
本間 雅彦（クリエイティブ&コンテンツ部 シニアディレクター）
戸田 裕介（クリエイティブ&コンテンツ部 編成/タレント&ミュージック マネージャー）
岡田 純明（コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント本部 シニアマネージャー）

- ・審議番組 「MTV Upcoming! : マカロニえんぴつ」
- ・放送概要 2020年10月29日（木）19時～20時
- ・番組内容 10代を中心に大きな支持を集める、ソングライターはっとり（Vo/Gt）を中心に神奈川県で結成。メンバー全員音大出身の次世代ロックバンド、マカロニえんぴつ。エモー

ショナルな歌声とキーボードの多彩な音色を組み合わせた壮大なバンドサウンドを武器に圧倒的なステージングを繰り広げ、ライブは軒並みソールドアウトを記録。

MTVではそんな彼らの2020年11月のメジャーデビューを記念した特別番組「MTV Upcoming! : マカロニえんぴつ」を制作。メジャーデビュー直前の彼らのスタジオライブやインタビューを収録し、2020年10月29日（木）に放送した。

当番組はMTV Japan YouTubeチャンネル開設に伴う、第一弾コンテンツの生配信番組として収録が実施されたが、MTVでの放送にあたっては配信とは異なる内容で、未公開の撮りおろしインタビューと再編集したスタジオライブで構成。配信番組の視聴有無を問わずに楽しめる番組制作を心がけた。

・委員からの意見・質問とMTVの回答

○シンプルな構成で「マカロニえんぴつ」というバンドの魅力を伝えていて、非常に好感が持てた。

○トークとライブが同じ場所で撮られているようだが、トーク部分は上下のフレームをマスクで切っており、ライブ映像とビジュアルで区別する工夫はとてもわかり易いと思った。

○一方でボーカルの方が目立ってしまい、ボーカルとその他3名のバンド、という印象を持ってしまった。実際、ボーカルの方が集めたバンドであるし、おそらくほとんどの楽曲製作を担当しているのも彼なのだろうから、ある程度やむを得ないのかもしれないが、もう少し他のメンバーの個性が際立つような演出があっても良かったとも思った。

○バンド名と楽曲程度など、あまりバンドに対する知識のない人にとっては「60分で知るマカロニえんぴつ」という感じの、彼らをもう一段理解するのによい番組だったと思う。

○メンバートークと過去のミュージックビデオ、スタジオライブと構成はオーソドックスだと思うが、だからこそ分かりやすく見やすかった。「結成の経緯」「バンド名の由来」などバンドに初めて触れる人向けの質問から始まり、「メンバーお気に入りのミュージックビデオ」などファンも興味を持てそうな見せ方を挟みつつ、制作手法や自身で感じる強みと徐々に知識が深まっていく流れもバンドを理解しやすかった。

○番組名は共通しながら、違う視聴者層にアプローチできるYouTubeと放送の2本立てというスタイルも興味深かった。先に配信されたYouTubeでの番組はメンバーと近い距離感のMCを立て、「メンバーからのタレコミ」などバラエティ的なコーナーがあったり、SNSで質問やツイートを募ったりとよりファンに向けた作り。一方、MTVでの番組のほうは特にMCを立てずにメンバーだけで話していたシンプルさで、ファン以外の初見の人にも見やすい内容と、それぞれの特性に合わせて演出も変えて作り分けていた。1アーティストの「A面とB面」「表と裏」を見られるようでユニークだった。

- 「Upcoming！」としては第1弾とのことだが、「マカロニえんぴつ」という素材とこの番組構成で、「今まさに飛躍しているアーティスト」を様々な角度から紹介していくという狙いは分かりやすく伝わった気がする。今後、どんなアーティストがここで扱われるのか楽しみだし、「ここに出たい」という番組に育つ可能性もあるのではと感じた。
- 新人を発掘、育てる番組としてはとてもいいと思う。
- 唐突に番組が始まる感がある。
- 「マカロニえんぴつというバンドはどういうバンドなのか？」がロールスーパーだけではちょっと頭に入ってこない感じがした。もっと興味を持たせる紹介があって本編が始まるといいと思う。
- 全体としては、段々彼らの人となりがわかり親しみを感じるようにできている。
- 音楽のルーツの所でDeep Purple等の映像も見せられるとよかった。
- 他アーティストへの興味を導く導線をつけられるといいと思う。
- 配信の番組と放送での番組を見て、配信と番組との差別化を明確にしていけないと思う。「配信ならではの何か」「番組ならではの何か」、その両方の頭にMTVだからこそそのエクスクルーシブを追求していった欲しい。
- この番組において倫理的に抵触する部分、公序良俗に反する部分などは見受けられなかった。
- 撮り下ろしのインタビュー、パフォーマンス、ミュージックビデオというシンプルな構成ながら、マカロニえんぴつの魅力がよく伝わってくる見ごたえのある内容だった。まさにブレイク前夜というタイミングで、MTVがミュージックビデオのヘビーローテーションとともにこのような番組を放送することは、次世代の音楽シーンを担うアーティストの創出という意味でも音楽業界への大きな貢献があると思う。
- 今回の番組にスポンサーについていたようだが、「番組」というコンテンツを事後、別なメディアで流すという「ワンコンテンツ・マルチユース」は、様々なコンテンツ・プロバイダーの共通のテーマであり、課題である。今回の「Upcoming！」は、それが非常に高いレベルで成立しているケースであり、MTVの新しい事業の柱に成長させることができる可能性を感じた。またMTVのYouTubeチャンネルを開設されたということで、こちらを使った新しいプロモーションや事業にも無限の可能性を感じている。
- コロナ禍は続いているが、エンターテインメントには視聴者を元気づける能力があると思うので、今後とも楽しいコンテンツで我々を楽しませてほしい。
- 聞き覚えのある曲も含めて、ユニークなミュージックビデオをいくつも試聴できたのはMTVならではの番組だと感じました。
- メンバーのトークは初々しくもメンバーの人となりがよくわかる内容だったが、バンド名に関するトークなどはテンポが悪く内容的にも若干冗長に感じた。

- 番組の構成が分かりにくいので、ナレーションを入れるなどメリハリをつけるとよかった。この点に関しては生配信のバージョンを見て改めて強く感じた。時間的に編集上の制約が大きいと思うが、ディスコグラフィ、メジャーデビューまでの道のり、代表曲、ヒット曲、タイアップなど、バンドのプロフィールに関する情報をテロップやパネルにして提供してもらえるとより視聴者に優しい番組になったと思う。
- メンバーの間のアクリルパネルに反射したメンバーの顔と他のメンバーの顔が重なって見づらく感じた箇所があった。撮影の角度や照明に注意が必要。
- 編集基準につき、問題となるような表現・発言はなかった。
- MTVらしく、各メンバーが自分たちのバンドの楽曲のうち、お気に入りのミュージックビデオを紹介するパートがたっぷりあり、またメンバーの映像に対する考え方も聞く事ができ、わかりやすかった。
- スタジオでの演奏も3曲あり、ライブ感覚を感じられた。
- バンドに関する事項、つまり結成の経緯、音楽のルーツ、バンド名、バンド名で得したこと、楽曲制作、曲へのこだわり、ライブについて想う事、バンドの魅力を自己分析、マカロニえんぴつの未来をメンバーの口から直接聞く事ができ、Upcomingアーティストを紹介する番組としての面目躍如だった。
- YouTube配信番組のように、視聴者からの質問に答えるようなコーナー、またメンバーが撮影した写真から現在の私生活を紹介するコーナーがあっても良かったかもしれない。
- もう少しオンラインライブ感を感じられても良かったかもしれない。
- バンドがブレイクするまでの苦労話（また、その頃の楽曲）、大学時代の同級生としての話なども昔の写真を示しながら、メンバーの仲の良さを紹介しても良かったかもしれない。
- 今回のこの番組は本格的ブレイク前夜の勢いのあるバンド「マカロニえんぴつ」の映像版プロフィールとしてとても優れた番組であると感じた。メンバーそれぞれのパーソナルを過去、現在、未来とみせながらそれぞれの音楽性や趣向なども端的に表現されていたと思う。
- ミュージックビデオとスタジオライブを織り交ぜて彼らの楽曲を紹介したアプローチも効果的に見えた。作り込んだミュージックビデオでの彼らの様子、スタジオライブでの緊張感のある彼らの様子が伺えた。
- インタビューの中でこのコロナ禍におけるライブ観などを話す姿などは印象的で彼らの真摯な姿が捉えられていたのも良かったと思う。
- このバンドの魅力を多面的に捉えそれぞれの切り口において魅力を抽出できている優れた番組だと思った。

- ・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和3年3月31日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

- ・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和3年4月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。

以上